

入江 菜々美
高平 沙世斗
羽崎 匠海
原口 優馬
畑 秀明

Strong Challengers

第15回 世界ユースボウリング選手権大会2018

入江菜々美が国際大会で初めての表彰台、しかも頂点に上りました。男子チームは4人とも大会初出場ながら、日本として3大会連続となるチーム戦のメダル獲得を達成。そして畑秀明は日本代表デビュー戦にして、個人でも銅メダル獲得です。

アジアでも世界でもメダルラッシュが止まらない Team JAPAN。そのプライドを受け継ぎながら、ユース世代は挑戦者スピリッツで道を切り開きます。

写真協力 World Bowling

2～3面 第9回全日本小学生競技大会
4面 第42回全日本中学選手権大会
5面 第42回全日本高校選手権大会
6面 U22 4th Fukuoka Summer Cup
7～8面 第15回世界ユース選手権大会、INFORMATION

index

見てでね! 私のストライク

福井しあわせ元気国体 2018

第73回 国民体育大会

織りなそう 力と技と美しさ

ボウリング競技

開催日程: 2018.10.1(月) ▶ 10.6(土) 会場: スポーツプラザ WAVE40 (福井市)

JBC 公益財団法人 全日本ボウリング協会

まなえ
亀島 愛永 (福井県ボウリング連盟)



福井しあわせ元気国体
マスコット「はびりゅう」
福井国体承認30第2-8号

北谷蓮斗 & 中島望結 最終ゲームで逆転V



初優勝の中島（左）と北谷



京都府山城広域振興局 岡本局長



吉岡協会副会長



京都府連盟田坂会長



宇治市山本市長

開会式
開会式は7月23日(月)15時から執り行われた。文部科学大臣杯第42回全日本中学選手権大会が7月23日(月)から25日(水)にかけて、京都・キョーイチボウル宇治(公認No.126・063)で開催された。男子も女子も最終ゲームでの逆転劇となり、北谷蓮斗(福岡・北九州市立則松中学校)と中島望結(佐賀・鹿島市立東部中学校)が初優勝を飾った。

文部科学大臣杯第42回全日本中学選手権大会が7月23日(月)から25日(水)にかけて、京都・キョーイチボウル宇治(公認No.126・063)で開催された。男子も女子も最終ゲームでの逆転劇となり、北谷蓮斗(福岡・北九州市立則松中学校)と中島望結(佐賀・鹿島市立東部中学校)が初優勝を飾った。

文部科学大臣杯

第42回全日本中学選手権大会



男子の部



技

清水嵐太(群馬)が1ゲーム目からパーフェクト。3ゲームで740をマークして1回戦のトップに立った。2回戦では吉原正明(埼玉)が7



松本選手が宣誓

司局長に代読いただき、続いて宇治市・山本正市長より祝辞をいただいた。
大会を主催する(一社)京都府ボウリング連盟の田坂幾太郎会長が選手を歓迎し、競技開会式を締めくくった。



男子の部入賞者

1ゲームで740をマークして1回戦のトップに立った。2回戦では吉原正明(埼玉)が7

女子の部

番井琴音(北海道)が1回戦で654をマーク、2位の

57と打ち上げてきたが、清水も71と53ピン差をキープした。
3回戦ではスコアが伸び悩んだ清水だったが、2位以下も大変動でリードはむしろ広がった。福岡(長崎)が67ピン差で追うかたちで決勝戦に突入した。
1ゲーム目は224とした清水だったが、2ゲーム目は182に留まった。そこへ北谷蓮斗(福岡)がパーフェクトをマークして迫ってきた。わずか24ピン差で迎えた最終ゲームを248で締めくくった北谷が、圧巻の逆転優勝を決めた。

57と打ち上げてきたが、清水も71と53ピン差をキープした。
3回戦ではスコアが伸び悩んだ清水だったが、2位以下も大変動でリードはむしろ広がった。福岡(長崎)が67ピン差で追うかたちで決勝戦に突入した。
1ゲーム目は224とした清水だったが、2ゲーム目は182に留まった。そこへ北谷蓮斗(福岡)がパーフェクトをマークして迫ってきた。わずか24ピン差で迎えた最終ゲームを248で締めくくった北谷が、圧巻の逆転優勝を決めた。



女子の部入賞者

第42回全日本中学ボウリング選手権大会において、3名がパーフェクトゲームを達成

パーフェクト 300
大会第3号 清水嵐太選手(群馬)
大会第4号 薄達勇雅選手(愛知)
大会第5号 北谷蓮斗選手(福岡)
それぞれ協会主催大会公認

石本恵梨奈(大阪)に42ピン差をつけた。2回戦も番井は613にまとめたが、小林愛理(徳島)が682と打ち上げて1ピン差に迫ってきた。
3回戦では再び650台をマークした番井。トップを守ったが、今度は中島望結(佐賀)が14ピン差につけて、依然混戦のまま決勝戦を迎えることになった。
決勝1ゲーム目は番井も中島も170台。2ゲーム目も番井は197で中島が204と接戦が続いた。10ピンリードの番井は最終ゲーム213をマークしたが、対する中島は235で逆転し優勝を奪った。

北谷蓮斗		北九州市立則松中	
		福岡県	14歳
使用ボール	Code Gold(14p)		
公認ドライバー	出羽正和	(公認No. 0774-40)	
中島望結		鹿島市立東部中	
		佐賀県	14歳
使用ボール	Cyborg(15p)		
公認ドライバー	秀島信之	(公認No. 1251-41)	

清水嵐太		高崎市立高松中	
		群馬県	14歳
使用ボール	Fame XR(15p3oz)		
公認ドライバー	中村敬一	(公認No. B0832-10)	
薄達勇雅		名古屋市立有松中	
		愛知県	14歳
使用ボール	Code X(15p1oz)		
公認ドライバー	坂野忠恵	(公認No. 0112-22)	

文部科学大臣杯 第42回全日本中学ボウリング選手権大会 成績表

男子126名 女子72名 計198名

2018年7月23日(月)～25日(水) 会場：京都・キョーイチボウル宇治

《男子(126)》			
優勝	北谷蓮斗(福岡)	北九州市立則松中学校	3年 2,678
準優勝	清水嵐太(群馬)	高崎市立高松中学校	3年 2,651
第3位	福満亮(長崎)	佐世保市立日宇中学校	3年 2,649
第4位	堤勇希(長崎)	佐世保市立祇園中学校	2年 2,594
第5位	南玲良(福岡)	北九州市立機田中学校	3年 2,585
第6位	座波政斗(沖縄)	那覇市立城北中学校	1年 2,539
第7位	浅川啓大(兵庫)	尼崎市立塚口中学校	3年 2,536
第8位	薄達勇雅(愛知)	名古屋市中区立有松中学校	3年 2,521
ハイゲーム	清水嵐太(群馬)	高崎市立高松中学校	3年 300
ハイゲーム	吉原正明(埼玉)	鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校	3年 757

《女子(72)》			
優勝	中島望結(佐賀)	鹿島市立東部中学校	3年 2,521
準優勝	番井琴音(北海道)	札幌市立美香保中学校	2年 2,509
第3位	石本恵梨奈(大阪)	大阪市立美津島中学校	3年 2,477
第4位	梅永紗妃(福岡)	福岡市立金武中学校	3年 2,468
第5位	近藤真桜(群馬)	太田市立西中学校	1年 2,462
第6位	清田月輝(福岡)	飯塚市立幸袋中学校	2年 2,430
第7位	近藤菜帆(愛知)	豊田市立前林中学校	3年 2,415
第8位	小林愛理(徳島)	徳島市立城東中学校	3年 2,410
ハイゲーム	小林愛理(徳島)	徳島市立城東中学校	3年 258
ハイゲーム	小林愛理(徳島)	徳島市立城東中学校	3年 682

【大会協賛社】
(株)アメリカンボウリングサービス、(株)ハイ・スポーツ社、(株)サンブリッジ、(株)フレイルド・リラックス(順不同・敬称略)

入賞者に副賞贈呈
今大会の入賞者には、協賛各社より副賞品が贈呈された。



パーフェクト左から 清水、薄達、北谷



H/G、H/S(左から)小林、清水、吉原

ガイド

中学生ボウラー日本一を決める全日本中学選手権大会。予選は3ゲーム×3回戦を行い、男子上位20名、女子上位16名が決勝に進出する。さらに3ゲームを行い、12ゲームの総得点で順位を決定する。

今大会ではパーフェクトゲームが一挙3ゲーム達成され、過去41回の通算達成回数(2回)を上回った。全国大会での最年少パーフェクトゲームとして認定された。3名には会場のキョーイチボウル宇治より記念品が贈呈された。

スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

エクト記録も今年2月に塗り替えられたばかり(12歳)。ボウリングキャリア開始の低年齢化や、中学生トップ選手の到達レベルが高まってきたことが伺える。

この大会はスポーツ振興基金の助成を受けて開催しています。

2年生が初優勝

渡辺莉央

新舎拓巳

群馬

岡山

JOCジュニア
オリンピックカップ

第42回全日本高校選手権大会



高橋選手による宣誓

7月30日(月)16時より開会式
を挙行政。北川薫協会会長
からの激励のメッセージが齋
藤良太郎事務理事によって代
読された。大会競技規程説明
・認証報告と審判団の紹介に
続き、地元神奈川代表・慶應
義塾高校の高橋雄士朗選手が
力強く選手宣誓を行った。

JOCジュニアオリンピックカップ第42回全日本高校選
手権大会が7月30日(月)から8月1日(水)にかけて、神奈川・
川崎グランドボウル(公認No.114・023)で開催され
た。300名を超える高校生ボウラーが集まり日本一の座
を争った。

男子は激しい首位争いの末、新舎拓巳(岡山・岡山理科
大学附属高校)が優勝。女子は最終ゲームにもつれ込む接
戦を渡辺莉央(群馬・前橋育英高校)が制した。男女とも
2年生ボウラーの初優勝となった。

開
会
式

競
技

男子の部

予選1回戦は志摩祐紀(徳
島)が3ゲームとも240超
とし、742で好発進した。
718で2位につけていた野
田廉斗(愛知)は、2回戦も
683にまとめてトータル1
401。トップに立つ2位の
新舎拓巳(岡山)に60ピン
差をつけた。

すると新舎は3回戦、1ゲ
ーム目にパーフェクトで野田
を逆転。このシリーズで73
7をマークして決勝戦を前に
92ピンのリードを作った。
野田は決勝1ゲーム目に2
46とし、その差を半分に縮
めたが後が続かず。激化する

女子の部

2位争いを後目に新舎は65
1とスコアをまとめて逃げ切
った。

渡辺莉央(群馬)が安定感
あるスコアメイクで1回戦6
94とし首位スタート。2位
の小林茜(徳島)は17ピン差
で追った。しかし2回戦は2
人とも振るわず、岩元美咲希
(愛知)が670を打って11
位から一気にトップまで上り
詰めた。

3回戦、岩元は無難に63
7とし1位通過を決めた。し
かし市立智香(熊本)と渡辺が
19ピン差と迫り、接戦模様で
決勝を迎えることになった。

1ゲーム目、238をマー
クした岩元に對し、渡辺は2
44でわずかに差を詰めた。
2ゲーム目は両者スコアを伸
ばせない中でも渡辺が10ピン
上回り、トータルは3ピン差
となった。勝負の最終ゲー
ム、渡辺は2つと打ち上げて
逆転で優勝をつかんだ。



H/G/H/S(左から)山田、
諏訪、新舎、佐藤

ガイド

高橋選手の個人日本一を決
める「全日本高校選手権大
会」今年には男女あわせて3
00名を超える選手が出場
した。ジュニア世代の全国
大会では最長となる42年の
歴史に加え、JOCジュニ
アオリンピックカップをか
けた試合としての権威を誇
る。

予選は3ゲーム×3回戦
を行い男子28名、女子20名



スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

新舎拓巳	岡山理科大学附属高校
岡山県連盟	
全日本ユースナショナルチームメンバー	17歳
使用ボール	Master Mind Zero(14p14oz)
公認ドライバー	梶 義宏 (公認No. 1142-33)
渡辺莉央	群馬県
16歳	
使用ボール	Capture(15p1oz)
公認ドライバー	福田尊仁 (公認No. 1807-10)

品が贈呈された。

第42回全日本高校選手権大
会において、新舎拓巳選手が
大会第29号となるパーフェク
トゲームを達成、協会主催大
会公認第438号として認定
された。新舎選手には会場の
川崎グランドボウルより記念
品が贈呈された。

パーフェクト
300



男子の部



女子の部

JOCジュニアオリンピックカップ
第42回全日本高校ボウリング選手権大会 成績表

2018年7月30日(月)~8月1日(水)
会場：神奈川・川崎グランドボウル
男子191名 女子117名 計308名

《男子(12G)》
優勝 新舎拓巳(岡山)岡山理科大学附属高等学校 2年 2,729
準優勝 坂原慎平(和歌山)県立和歌山北高等学校 2年 2,656
第3位 木村晃(神奈川)県立釜利谷高等学校 2年 2,623
第4位 林元輝(愛知)県立杏和高等学校 1年 2,618
第5位 野田廉斗(愛知)県立一宮興道高等学校 1年 2,610
第6位 斉藤翔(愛知)県立鳴海高等学校 1年 2,585
ハゲム 新舎拓巳(岡山)岡山理科大学附属高等学校 2年 300
ハシリズ 佐藤宇宙(愛知)名古屋市立富田高等学校 2年 752
《女子(12G)》
優勝 渡辺莉央(群馬)前橋育英高等学校 2年 2,578
準優勝 岩元美咲希(愛知)名古屋市立若宮商業高等学校 1年 2,560
第3位 太琳華(沖縄)県立中部商業高等学校 3年 2,504
第4位 諏訪汐香(神奈川)県立大師高等学校 2年 2,448
第5位 上野帆楓(埼玉)県立志木高等学校 1年 2,446
第6位 市立智香(熊本)熊本国府高等学校 1年 2,441
ハゲム 山田悠哉奈(愛知)県立木曾川高等学校 2年 287
ハシリズ 諏訪汐香(神奈川)県立大師高等学校 2年 698

Park Geon Haが頂点に



(韓国)

U22 4th Fukuoka

Summer Cup

Bowling Tournament 2018 sponsored by STORM

グレードアップした夏の祭典



U22部門入賞者

U22 4th Fukuoka Summer Cup Bowling Tournament Sponsored by STORMが8月7日(火)から11日(土)にかけて、福岡・博多スタレーン(公設No.1400-016)で開催された。創設4年目を迎えてジュニア・ユース世代の一大イベントに定着したこの大会。海外への飛躍を後押しするため、レギュレーションが大幅にリニューアルされた。

予選はMQ方式

日本のボウラーにとって国際オープン大会はまだ馴染みが薄い状況。U22 Fukuoka Summer Cupは国内開催のため参加しやすく、国際経験を積みアジア圏の同世代ボウラーと交流できる貴重な機会になっている。今回はオープン大会の競技方式としてメジャーな「MQ方式」を採用された。

U15部門が登場

大会には12歳からの選手が出場可能だが、キャリア面で後発の中学生にも焦点を当てたため、U15部門が新たに設けられた。MQの6ゲームスコア上位26名が決勝に進出した。スコアをリセットして8ゲームを投球。地元福岡の熊凌汰選手が最終2ゲームで250台を連発して優勝した。



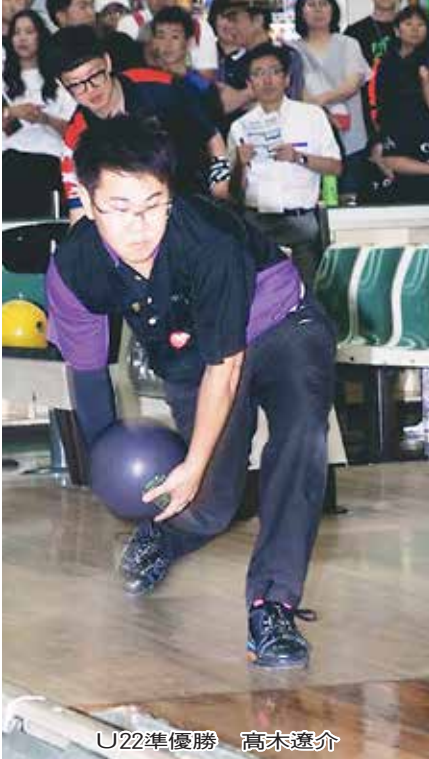
U15優勝 熊凌汰

敗者復活枠も

U22部門の準決勝には、まずMQの上位35名が進出決定。36位以下の選手は、「デスペアード」なる敗者復活戦に臨み、4枠を1ゲームマッチで争った。準決勝では39名が8ゲームを投球。スコア持ち込み無しで上位6名が決勝戦に進出した。

決勝戦

はじめに4・5・6位通過選手が1ゲームマッチで対決。元ユースナショナルチームメンバーの土方捷(神奈川)、世界ユース選手権でメダリストとなったばかりの原口優馬(長崎)を抑えて、紅一点のH・B・ナム(韓国)が勝ち上がった。ナムを待ち構えたのは高木遼介(福岡)とO・ウォン(シンガポール)。最終フレームまで三つ巴



U22準優勝 高木遼介

の混戦の結果、高木とナムが239の同点で並び、ショットプレーオフに。ストライクを決めた高木が振り切った。トップ通過のG・H・パクと、地元期待を一身に背負った高木による優勝決定戦は、ストライクラッシュを披露したパクの勝利となった。

【大会成績】

▽U22部門(決勝トーナメント)
①Park Geon Ha(韓国) ②高木遼介(福岡) ③Owen Wong(シンガポール) ④Nam Hye Bin(韓国) ⑤土方捷(神奈川) ⑥原口優馬(長崎) ⑦山本智哉(広島) ⑧宮澤拓哉(群馬) ⑨Oho Ehan Hee(韓国) ⑩斎藤祐太(神奈川) ⑪Laver Leo(シンガポール) ⑫早川知里(愛知) ⑬羽ケ崎匠海(神奈川) ⑭Lee Won Se(韓国) ⑮木村晃(神奈川) ⑯Kunakorn Pongnukul(タイ) ⑰Rani(マレーシア) ⑱Joran Chin(シンガポール) ⑲Lee Jee(シンガポール) ⑳Jeremyah Chanchao(ブーム) ㉑Lee Jee(シンガポール) ㉒Lee Jee(シンガポール) ㉓Lee Jee(シンガポール) ㉔Lee Jee(シンガポール) ㉕Lee Jee(シンガポール) ㉖Lee Jee(シンガポール) ㉗Lee Jee(シンガポール) ㉘Lee Jee(シンガポール) ㉙Lee Jee(シンガポール) ㉚Lee Jee(シンガポール) ㉛Lee Jee(シンガポール) ㉜Lee Jee(シンガポール) ㉝Lee Jee(シンガポール) ㉞Lee Jee(シンガポール) ㉟Lee Jee(シンガポール) ㊱Lee Jee(シンガポール) ㊲Lee Jee(シンガポール) ㊳Lee Jee(シンガポール) ㊴Lee Jee(シンガポール) ㊵Lee Jee(シンガポール) ㊶Lee Jee(シンガポール) ㊷Lee Jee(シンガポール) ㊸Lee Jee(シンガポール) ㊹Lee Jee(シンガポール) ㊺Lee Jee(シンガポール)

▽U15部門(決勝8G)
①熊凌汰(福岡) 1800G ②Lim Kai Jie(シンガポール) 1700G ③堤勇希(長崎) 1700G ④Hur Hazirah Bint(シンガポール) 1600G

▽U22部門(決勝8G)
①Park Geon Ha(韓国) 1800G ②高木遼介(福岡) 1700G ③Owen Wong(シンガポール) 1600G ④Nam Hye Bin(韓国) 1500G ⑤土方捷(神奈川) 1400G ⑥原口優馬(長崎) 1300G ⑦山本智哉(広島) 1200G ⑧宮澤拓哉(群馬) 1100G ⑨Oho Ehan Hee(韓国) 1000G ⑩斎藤祐太(神奈川) 900G ⑪Laver Leo(シンガポール) 800G ⑫早川知里(愛知) 700G ⑬羽ケ崎匠海(神奈川) 600G ⑭Lee Won Se(韓国) 500G ⑮木村晃(神奈川) 400G ⑯Kunakorn Pongnukul(タイ) 300G ⑰Rani(マレーシア) 200G ⑱Joran Chin(シンガポール) 100G ⑲Lee Jee(シンガポール) 0G ⑳Jeremyah Chanchao(ブーム) 0G ㉑Lee Jee(シンガポール) 0G ㉒Lee Jee(シンガポール) 0G ㉓Lee Jee(シンガポール) 0G ㉔Lee Jee(シンガポール) 0G ㉕Lee Jee(シンガポール) 0G ㉖Lee Jee(シンガポール) 0G ㉗Lee Jee(シンガポール) 0G ㉘Lee Jee(シンガポール) 0G ㉙Lee Jee(シンガポール) 0G ㉚Lee Jee(シンガポール) 0G ㉛Lee Jee(シンガポール) 0G ㉜Lee Jee(シンガポール) 0G ㉝Lee Jee(シンガポール) 0G ㉞Lee Jee(シンガポール) 0G ㉟Lee Jee(シンガポール) 0G ㊱Lee Jee(シンガポール) 0G ㊲Lee Jee(シンガポール) 0G ㊳Lee Jee(シンガポール) 0G ㊴Lee Jee(シンガポール) 0G ㊵Lee Jee(シンガポール) 0G ㊶Lee Jee(シンガポール) 0G ㊷Lee Jee(シンガポール) 0G ㊸Lee Jee(シンガポール) 0G ㊹Lee Jee(シンガポール) 0G ㊺Lee Jee(シンガポール) 0G

豪華副賞・褒賞金に
チャリティイベントも

U22・U15の両部門、優勝者にはアメリカでの大会出場サポート(Visit USA)が贈られた。準優勝はマレーシアでの大会出場サポート(MILO CUP)が、3位にはストーム社製品提供を受けられる「ローカルスタッフ」が副賞として贈呈された。また優勝から16位までの選手に褒賞金とストーム社製品がプレゼントされた。

最終日には大会恒例のチャリティゲームも行われ、選手や大会スタッフ、観戦の方など多数が参加。収益金10万52円に上り、大会実行委員会が(株)ハイ・スポーツ社のボウリング用品を購入して(社)チャリティゲームには順位賞と抽選賞が



U22第3位 ©・Wong



U22第4位 H・B・ナム

第15回 世界ユース選手権大会

シングルス戦

昨年の世界選手権が代表デビュー戦だった入江が同じアメリカでの世界大会で、リベンジとも言える快挙を遂げた。シングルスは予選6ゲームの上位4名が決勝に進む。1ゲーム目に253と好スタートを切った入江は、3ゲーム目の278で4位につけた。200UPしても順位を落とすシビアな戦いの中で、最終ゲームに338をマークして2位に浮上、メダルを確定させた。



ストライクを狙う入江

もダブルで追いかける。しかし入江は一気に4連続ストライクを決めて優位に。このリードを守り抜いて優勝決定戦へと勝ち上がった。頂上決戦の相手はC・ジョンソン（アメリカ）。このゲームもダブルを先行された上、入江は立ち上がりストライクコースが定まらず大苦戦する。ノーミスのジョンソン

ダブルス戦

男子は2グループに分かれて予選を行い、畑秀明（神奈川）と原口優馬（長崎）のペア



男子チーム戦銅メダルの日本



パーフェクトで盛り上がる日本

チーム戦

女子は前半、苦戦しながらも何とか2401にまとめ、5位につけた。トップの韓国とは152ピン差がついたが、4位フィンランドには5ピンの後を取ったのみ。決勝進出を目指して臨んだ後半は1ゲーム目に890をマーク、3位に浮上した。2ゲーム



優勝を決めて歓喜の表情に

アがAグループで登場。要所でビッグゲームをマークして2625までスコアを伸ばした。グループ内4位で決勝進出への望みをつないだが、Bグループも合わせての結果は8位で決勝には進めなかった。羽ヶ崎匠海（神奈川）・高平沙也斗（愛知）ペアは40位、女子は18位と23位に終わった。



ユース世代にしてベテラン格の石本と泉宗がマスターズに進出



日本代表のツィンハンター・畑が大躍進

オールイベント

シングルス戦、ダブルス戦、チーム戦での個人成績合計でオールイベントの順位が決まる。男子は3種目とも安定したスコアを残した畑が13位に入り、上位24名に与えられるマスターズ戦の出場枠を獲得した。

マスターズ戦

女子は前回大会でこの種目金メダルの泉宗が8位に入った。ベスト8はマスターズ戦に1回戦シード枠で出場できる。石本も2位につけて、3大会連続となるマスターズ戦表彰台を期待させた。

ガイド

21歳以下の各国代表が集まる世界ユース選手権大会。シングルス戦、ダブルス戦、4人チーム戦、マスターズ戦を、全て男女別で行う。シングルス、ダブルス、4人チームの3種目は予選6ゲームを行い4位までが決勝トーナメントに進

出る。決勝ではシングルスとダブルスは人数×1ゲームマッチを行うが、4人チーム戦ではベーカー方式（2ゲーム先制制）で対決する。マスターズ戦はオールイベント（3種目の予選個人成績合計）の上位24名が出場し、2ゲーム先制制マッチのトーナメントで順位を決定した（1〜8位通過の

選手はシードとして2回戦からの登場）日本代表は第12回大会（2012）以降、複数メダル獲得が続いている。▽第12回 銀2▽第13回 金3・銀2・銅2▽第14回 銀1・銅1▽第15回 金1・銅2女子シングルス戦では日本勢として初のコメダル獲得となった。

第15回世界ユースボウリング選手権大会2018

2018. 7. 25-8. 3
アメリカ・デトロイト サンダーボウルレーンズ

参加37の国と地域 215名(男子133・女子82)

《男子シングルス戦》予選6 G⇒決勝トーナメント

予選順位	予選スコア	優勝	Skryten, Georg (ノルウェー)
第1位	1,472	準優勝	Yatsko, Danylo (ウクライナ)
第2位	1,429	3位	Berggren, Alfred (スウェーデン)
第3位	1,469	4位	Alkheili, A. A. (サウジアラビア)
第4位	1,466		
第5位	1,463		
第6位	227		
第7位	176		
第8位	181		
第9位	1,305		
第10位	1,292		
第11位	1,167		
第12位	1,085		

《男子ダブルス戦》予選2 × 6 G⇒決勝トーナメント

予選順位	予選スコア	優勝	スウェーデン
第1位	2,814	準優勝	オーストラリア
第2位	2,673	3位	スウェーデン
第3位	2,734	4位	大韓民国
第4位	2,734		
第5位	2,678		
第6位	416		
第7位	479		
第8位	383		
第9位	2,625		
第10位	2,606		

《男子チーム戦》予選4 × 6 G⇒決勝トーナメント（ベーカー方式・2ゲーム先制制）

予選順位	予選スコア	優勝	カタール
第1位	5,191	準優勝	フィンランド
第2位	5,146	3位	日本(畑・原口・羽ヶ崎・高平)
第3位	5,147	4位	フィリピン
第4位	5,147		
第5位	5,146		

《男子オールイベント》18 G

第1位	Aboujassoum, Ghanim (カタール)	4,141	第13位	畑 秀明(日本・神奈川)	3,902
第2位	Han, Jaehyeon (大韓民国)	4,093	第32位	原口 優馬(日本・長崎)	3,812
第3位	Oksanen, Niko (フィンランド)	4,078	第37位	高平 沙也斗(日本・愛知)	3,793
			第39位	羽ヶ崎 匠海(日本・神奈川)	3,764

《男子マスターズ戦》トーナメント（2ゲーム先制制マッチ）

Han, Jaehyeon (韓国)	1 (235/210/210)	優勝	Schenck, Cortez (アメリカ)
Zulkifli, S. A. (マレーシア)	2 (202/279/227)	準優勝	Zulkifli, S. A. (マレーシア)
畑 秀明(日本・神奈川)	1 (210/186/104)	3位	畑 秀明(日本・神奈川)
Schenck, Cortez (アメリカ)	2 (193/199/213)		Han, Jaehyeon (韓国)

《女子シングルス戦》予選6 G⇒決勝トーナメント

予選順位	予選スコア	優勝	入江 菜々美(日本・岐阜)
第1位	1,402	準優勝	Johnson, Caitlyn (アメリカ)
第2位	1,332	3位	Botero, Juliana (コロンビア)
第3位	1,342	4位	Clemmer, Breanna (アメリカ)
第4位	1,341		
第5位	1,233		
第6位	1,183		
第7位	201		
第8位	238		
第9位	246		
第10位	229		
第11位	181		
第12位	1,147		

《女子ダブルス戦》予選2 × 6 G⇒決勝トーナメント

予選順位	予選スコア	優勝	メキシコ
第1位	2,673	準優勝	アメリカ
第2位	2,585	3位	カナダ
第3位	2,621	4位	スウェーデン
第4位	2,591		
第5位	2,369		
第6位	421		
第7位	355		
第8位	398		
第9位	380		
第10位	420		
第11位	2,294		

《女子チーム戦》予選4 × 6 G⇒決勝トーナメント（ベーカー方式・2ゲーム先制制）

予選順位	予選スコア	優勝	アメリカ
第1位	5,103	準優勝	大韓民国
第2位	4,956	3位	スウェーデン
第3位	5,006	4位	マレーシア
第4位	4,987		
第5位	4,903		

《女子オールイベント》18 G

第1位	Sahar, Nur Syazwani (マレーシア)	3,937	第8位	泉 宗心(日本・愛媛)	3,825
第2位	Botero, Juliana (コロンビア)	3,903	第21位	泉 美来(日本・学連)	3,668
第3位	Hong, Sunhwa (大韓民国)	3,903	第30位	入江 菜々美(日本・岐阜)	3,616
			第57位	水谷 秋穂(日本・愛知)	3,362

《女子マスターズ戦》トーナメント（2ゲーム先制制マッチ）

Lee, Jungmin (韓国)	2 (245/246)	優勝	Lee, Jungmin (韓国)
Sahar, Nur Syazwani (マレーシア)	0 (207/241)	準優勝	Son, Hyeonji (韓国)
Son, Hyeonji (韓国)	2 (171/227/192)	3位	Sahar, Nur Syazwani (マレーシア)
Williamson, Emma (オーストラリア)	1 (179/169/189)		Williamson, Emma (オーストラリア)

ベスト16 泉 宗心(日本・愛媛) (スリッパ 2敗退)
ベスト16 石 本 美 来(日本・学連) (スリッパ 2敗退)

水谷 秋穂(愛知・県立中川商業高校)
入江 菜々美(岐阜・朝日大学)

泉 宗心(愛媛・聖カタリナ大学)
石 本 美来(学連・岡山商科大学)

羽ヶ崎匠海(神奈川・県立横浜南陵高校)
畑 秀明(神奈川・湘南学院高校)

高平沙也斗(愛知・岡崎サンパウロ)
原口 優馬(長崎・楠チヨウプロ)

と、2ゲーム目は237対225で取り返した。勝負の3ゲーム目は207対215。最後まで競ったがここで敗退となった。泉宗もロシアのラノワを相手にストレートで敗れ、2人ともベスト16という結果だった。畑は1回戦で一方の男子。畑は1回戦で

J・G・イ(韓国)とフルゲームの戦いに持ち込まれたが、223・223・224とスコアは安定の一言。辛くも2勝して2回戦に駒を進めた。続いてはスウェーデンのバルグレンと対戦。ここでは229・239としストレート勝ちを決めた。

日を変えて行なわれたベスト8の4マッチ。畑はノルウェーのスケルテンに1ゲーム目を奪われてしまう。2ゲーム目を215対204で取り返すと、最終ゲームは両者大苦戦。174対169で畑が勝利し、メダルが確定した。準決勝の相手はC・シェン

ク(アメリカ)。畑は1ゲーム目を210対193で勝利した。しかし186対199で2ゲーム目を落とした後の最終ゲーム、思うように体が動かずアジャストに迷ってしまふ。日本代表デビュー戦での快進撃は銅メダルで幕を閉じた。

〒063-0814 北海道札幌市西区琴似四条7丁目1-20